

## 添付資料

### 温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート

事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル

#### ■該当する類型

類型	1
----	---

#### ■基準シナリオの種別

使用済み紙おむつ（産業廃棄物）の全国平均の処理
-------------------------

令和8年4月 X 日

## ■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデータ一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する類型の様式のみ作成すること

# 1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

注記) 個別事業者の算定資料につき、各諸数値の根拠は一部想定値で記載しております。  
 当該事業において技術検証等は実施していません。

## 事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル

### ■該当する類型

### ■基準シナリオの種別

類型	1
----	---

使用済み紙おむつ（産業廃棄物）の全国平均の処理
-------------------------

### ■シナリオの概要と機能単位

記入項目		記入欄	
シナリオ の概要	事業 シナリオ	廃棄物の種類 使用済み紙おむつ（産業廃棄物）	
		再資源化等の方法 紙おむつのプラスチック、パルプ、SAPへの分離、破碎、洗浄等による素材ごとのリサイクルを行う。プラスチック洗浄残渣からRDF、プラスチックからは再生ペレット、パルプから再生パルプ、SAPからはRPF、廃水の脱水汚泥から肥料、廃水処理残渣は焼却後埋立とする。 紙おむつ1t当たりの残渣量25kgは熱回収	
		再生材（複数ある場合は処理割合） 廃棄物の処理量1tあたり 再生プラ（PE、PP、PS混合ペレット）63kg、RDF発電燃料15kg、再生パルプ87kg、RPF燃料58kg、肥料4.5kg	
機能単位	対象 とする 廃棄物	種類と量	使用済み紙おむつ（産業廃棄物）1t
		排出源	XX市：XX% XX市：XX%
	生産される再生部品又は再生資源	再生プラ（ペレット）、RDF発電燃料、再生パルプ、RPF燃料	
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			

## 2.算出範囲

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

### 事業名：使用済み紙おむつのマテリアルサイクル(類型1)

#### ■各シナリオのプロセス

事業A：事業シナリオの再資源化プロセス

事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス

基準A：基準シナリオの処理プロセス

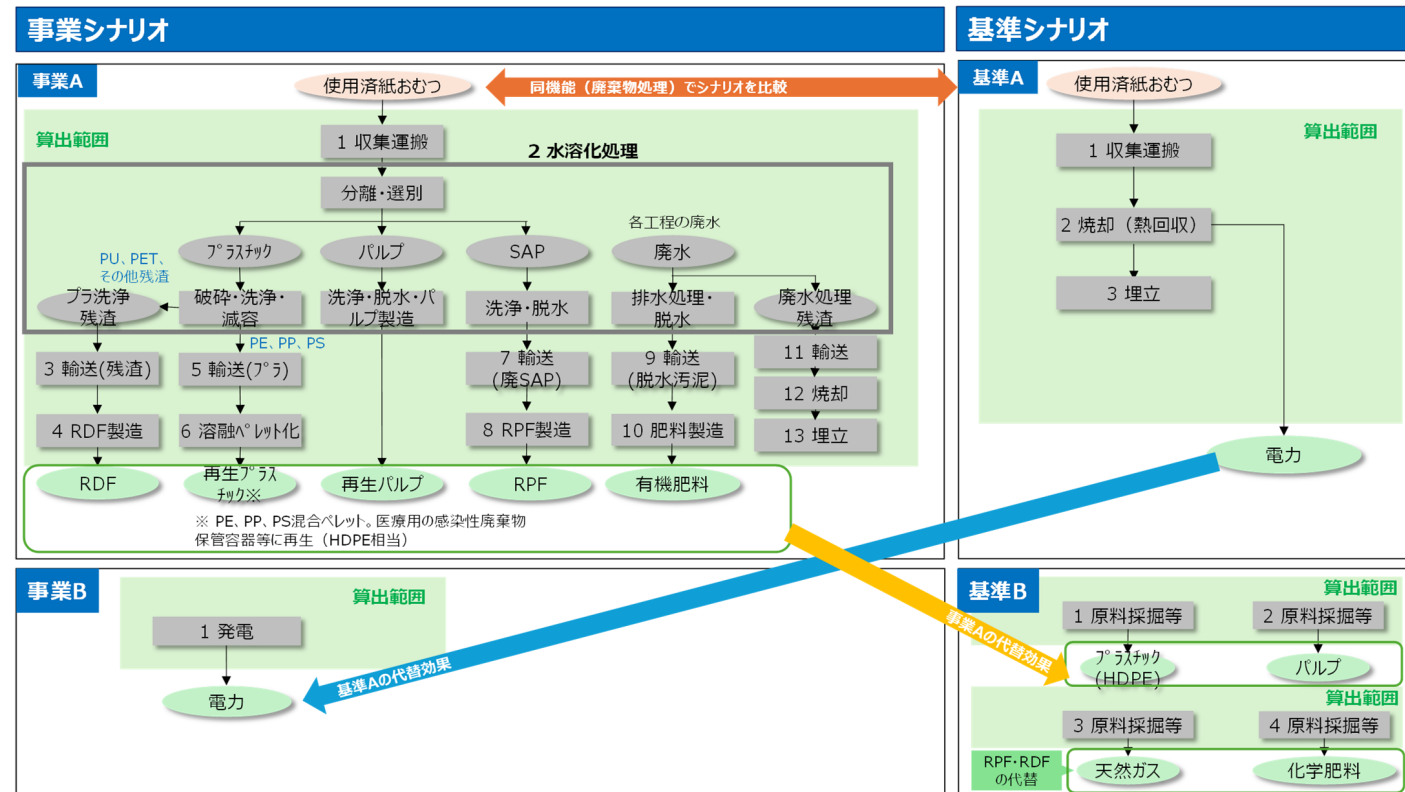
基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

#### ■算出範囲

類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで



(凡例) □：プロセス ○：製品・サービス 緑色の範囲：算出範囲

#### 【入力上の注意】

- ・算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- ・算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲を明示すること。
- ・算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- ・両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- ・「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
- ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
- ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
- ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名\_事業名.拡張子」とすること。
- ・類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

3.インベントリデータ一覧

事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデータ

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
	1	a	使用済み紙おむつの収集運搬	活動量	75.000	tkm	1t×75km=75tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。廃棄物量1tを75km輸送（排出事業者からの平均的な距離を想定）	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1	b	使用済み紙おむつの収集運搬	排出係数	0.189	kgCO2e/tkm	0.0722L/tkm×2.62kgCO2e/L=0.189kgCO2e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック3t車、積載率90%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「2-4t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.0722L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.62kgCO2e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	2	a	水溶化処理（CaCl2の注入）	活動量		t	XL×Ykg/L	事業者ヒアリングより 廃棄物1tあたりの薬品使用量XL CaCl2(35%aq)の比重：Y	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	b	水溶化処理（CaCl2の注入）	排出係数	744.000	kgCO2e/t	-	出典より、塩化カルシウムの使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3
	2	c	水溶化処理（次亜塩素酸ナトリウムの注入）	活動量		t	XL×Ykg/L	事業者ヒアリングより 廃棄物1tあたりの薬品使用量XL （次亜塩素酸ナトリウム12%aq)の比重：Y （SDSより）	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	d	水溶化処理（次亜塩素酸ナトリウムの注入）	排出係数	789.000	kgCO2e/t	-	出典より次亜塩素酸ナトリウムの使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3
	2	e	水溶化処理（高分子凝集剤の注入）	活動量		t	-	事業者ヒアリングより 廃棄物1tあたりの使用量	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	f	水溶化処理（高分子凝集剤の注入）	排出係数	2,660.000	kgCO2e/t	-	出典より、高分子凝集剤の使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3
	2	g	水溶化処理（メタノールの注入）	活動量		t	XL×Ykg/L	事業者ヒアリングより 廃棄物1tあたりの薬品使用量XL メタノール(50%aq)の比重：Y（SDSより）	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	h	水溶化処理（メタノールの注入）	排出係数	2.228	kgCO2e/t	-	出典より、メタノールの使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3
	2	i	水溶化処理（苛性ソーダの注入）	活動量		t	XL×Ykg/L	事業者ヒアリングより 廃棄物1tあたりの薬品使用量XL 苛性ソーダの比重：Y（SDSより）	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	j	水溶化処理（苛性ソーダの注入）	排出係数	1,677.000	kgCO2e/t	-	出典より、苛性ソーダの使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3
	2	k	水溶化処理（工業用水の使用）	活動量		m3	-	事業者ヒアリングより、廃棄物1tあたりの使用量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	l	水溶化処理（工業用水の使用）	排出係数	0.002	kgCO2e/m3	-	出典より、工業用水の使用におけるCO2排出量原単位を取得	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析表2	3

【入力上の注意】

- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/ データの範囲：鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、鋳造、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意すべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）  
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/ 〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYYt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。  
XXX kWh / YYY t = ZZZ kWh  
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。  
記載例：②基準A-3a  
=②基準シナリオ カテゴリ：基準A、プロセス・参照番号：3aを示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。
- ・「出典」に記載の引用箇所のページ番号、数値について、算出シートには出典資料として添付すること。  
出典資料は、引用箇所が分かるようマークを付けたうえで該当ページを提出のこと。

事業A	2 m	水溶化処理（電力使用）	活動量		kWh	-	事業者ヒアリングより、廃棄物1tあたりの使用量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2 n	水溶化処理（電力使用）	排出係数	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	4
	3 a	輸送（プラ洗浄残渣）	活動量	0.009	tkm	0.015t×0.6km=0.009tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。洗浄残渣0.015t、輸送距離0.6kmを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	3 b	輸送（プラ洗浄残渣）	排出係数	0.333	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.127L/tkm×2.62kgCO <sub>2</sub> e/L=0.333kgCO <sub>2</sub> e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック4t車、積載率50%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「2-4t車・積載率40%・2025年度基準」の燃費（0.127L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.62kgCO <sub>2</sub> e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた。	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	4 a	RDF製造	活動量	0.015	t	-	事業者ヒアリングより、RDF製造量0.015t、RDFの収率100%	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	4 b	RDF製造	排出係数	373.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	0.03119 [kg-CO <sub>2</sub> eq/MJ-RDF] × 11.96[MJ-RDF/kg-RDF] × 1000=373[kg-CO <sub>2</sub> eq/t]	RDF発熱量 11.96 MJ-RDF/kg-RDF RDF化に係るGHG排出量（計）31.19 g-CO <sub>2</sub> eq/MJ-RDF	経済産業省(2023)第26回 総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 新エネルギー小委員会 バイオマス持続可能性ワーキンググループ 資料2 ライフサイクルGHGに係る確認方法等について（報告）	5
	5 a	輸送（プラ）	活動量	4.158	tkm	0.063t×66km=4.158tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。プラスチック量0.063t、輸送距離66kmを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	5 b	輸送（プラ）	排出係数	0.124	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.0475L/tkm×2.62kgCO <sub>2</sub> e/L=0.124kgCO <sub>2</sub> e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック13t車、積載率38%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「12-17t車・積載率40%・2025年度基準」の燃費（0.0475L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.62kgCO <sub>2</sub> e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
	6 a	プラ破碎・洗浄・加工	活動量	6.485	kWh	102.93kWh/t x 0.063t=6.485kWh	事業者ヒアリングより 処理対象のプラスチック：63kg プラスチック1tあたりの破碎機における電力使用量：102.93kWh/t	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	6 b	プラ破碎・洗浄・加工	排出係数	0.423	kg-CO <sub>2</sub> e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	4
	6 c	プラ洗浄（工業用水使用）	活動量		m <sup>3</sup>	X m <sup>3</sup> /t×0.063t=X m <sup>3</sup>	事業者ヒアリングより 処理対象のプラスチック：63kg プラスチック1tあたりの工業用水使用量：X m <sup>3</sup>	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	6 d	プラ洗浄（工業用水使用）	排出係数	0.070	kgCO <sub>2</sub> e/m <sup>3</sup>	-	-	藤山ら（2012）使用済み紙おむつのマテリアルリサイクルのライフサイクルインベントリ分析 表2	3
	6 e	プラ異物除去	活動量		kWh	XkWh/t×0.063t=XkWh	事業者ヒアリングより 処理対象のプラスチック：63kg プラスチック1tあたりのレーザーフィルターにおける電力使用量：X kWh/t	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	6 f	プラ異物除去	排出係数	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	4
6 g	プラペレット化	活動量		kWh	XkWh/t×0.063t=XkWh	事業者ヒアリングより 処理対象のプラスチック：63kg プラスチック1tあたりのペレット化における電力使用量：X kWh/t	事業実績（事業者ヒアリングより）	1	
6 h	プラペレット化	排出係数	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	4	

7 a	輸送（廃SAP）	活動量	0.017 tkm	0.058t×0.3km=0.017tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。プラスチック量58kg、輸送距離0.3kmを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
7 b	輸送（廃SAP）	排出係数	0.095 kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.0364L/tkm× 2.620kgCO <sub>2</sub> e/L=0.0950kgCO <sub>2</sub> e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック10t車、積載率84%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「8-10t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.0364L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO <sub>2</sub> e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた。	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
8 a	RPF製造	活動量	0.058 t	-	事業者ヒアリングより廃棄物1tあたりのRPF化するSAPの量：58kg、RPFの収率100%	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
8 b	RPF製造	排出係数	109.000 kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典より、廃プラスチック類の燃料化にかかる排出係数を取得	海洋プラスチック問題対応協議会（2019）「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p90	6
9 a	輸送（脱水汚泥）	活動量	0.918 tkm	0.018t×51km=0.918tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。脱水汚泥18kg、輸送距離51kmを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
9 b	輸送（脱水汚泥）	排出係数	0.239 kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.0912L/tkm× 2.62kgCO <sub>2</sub> e/L=0.239kgCO <sub>2</sub> e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック3t車、積載率67%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「2-4t車・積載率60%・2025年度基準」の燃費（0.0912L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.62kgCO <sub>2</sub> e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
10 a	脱水汚泥の肥料化	活動量	0.018 t	-	事業者ヒアリングより、脱水汚泥18kgを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
10 b	脱水汚泥の肥料化	排出係数	40.500 kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典より、下水汚泥1tの発酵肥料化処理にかかるエネルギー消費量40.5kgCO <sub>2</sub> eを取得	橘 隆一ら（2008）下水汚泥発酵肥料の製造に関するLCA, 日本LCA学会研究発表会講演要旨集, 第3回日本LCA学会研究発表会 p27	7
11 a	輸送（廃水処理残渣）	活動量	1.194 tkm	0.0254t×47km=1.194tkm	事業者ヒアリングから輸送距離を測定。残渣の量25.4kg、輸送距離47kmを取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
11 b	輸送（廃水処理残渣）	排出係数	0.095 kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.0364L/tkm× 2.62kgCO <sub>2</sub> e/L=0.095kgCO <sub>2</sub> e/tkm	・事業者ヒアリングより、トラック10t車、積載率84%を取得 ・経済産業省、国土交通省（2023）より「8-10t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.0364L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.62kgCO <sub>2</sub> e/L）を得て、これに乗じて収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO <sub>2</sub> 排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1, 2
12 a	焼却（廃水処理残渣）	活動量	0.025 t	-	事業者ヒアリングより廃棄物1tあたりの残渣発生量25.4kg	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
12 b	焼却（廃水処理残渣）	排出係数	534.000 kgCO <sub>2</sub> e/t	-	出典より、廃棄物の焼却処理の排出係数の平均値0.534tCO <sub>2</sub> e/tを取得	環境省（2025）「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース（Ver.3.5）」, [8]廃棄物種類・処理方法別排出原単位<事務局>「平均値（焼却処理）」	8

	13 a	埋立	活動量	0.002 t		$0.0254t \times (20\% \times 7.5\% + 10\% \times 56.4\% + 5\% \times 36.1\%) = 0.002t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者ヒアリングより、廃水処理残渣25.4kg、紙おむつを処理した際の各プロセスの組成（残渣を除いた重量割合）：汚泥7.5%、プラスチック類(SAP含む)56.4%、パルプ類36.1% を取得。</li> <li>・焼却処理残渣率</li> <li>有機性汚泥20%、廃プラスチック類10%、紙くず5%</li> <li>→廃水処理残渣が各プロセスの組成と同じと仮定し、廃水処理残渣25.4kgの焼却により発生する焼却残渣を算出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実績（事業者ヒアリングより）</li> <li>・環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量 実態調査報告書」p30 表3-1-3 産業廃棄物の種類別の焼却処理残さ率</li> </ul>	1, 9
	13 b	埋立	排出係数	85.100 kgCO2e/t	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>出典より燃えがらの埋立処理（廃棄物輸送段階含む）の排出係数の平均値0.0851tCO2e/tを取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省（2019）「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース（Ver.2.6）」, [8] 廃棄物種類・処理方法別排出原単位&lt;事務局&gt;シートE37</li> </ul>	10
事業B	1 a	発電	活動量	338.433 kWh		$0.975t \times 8,800MJ/t \times 14.2\% \div 3.6MJ/kWh = 338kWh$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱回収（発電）の対象とする廃棄物</li> <li>基準シナリオ1t - 事業シナリオ0.0254t = 0.975t</li> <li>・環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和5年度）について」より、ごみ焼却施設における発電効率（平均）14.2%を取得</li> <li>・環境省（平成22年）「高効率ごみ発電施設整備マニュアル」より、一般廃棄物の低位発熱量として8,800MJ/tを取得</li> <li>・資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」より電力回収換算値：1kWh = 3.6MJ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和5年度）について」p9</li> <li>・環境省（平成22年）「高効率ごみ発電施設整備マニュアル」p6</li> <li>・環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和5年度）について」p9</li> <li>・資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」固有単位表</li> </ul>	11, 12, 13
	1 b	発電	排出係数	0.423 kgCO2e/kWh	-		<ul style="list-style-type: none"> <li>出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」p18</li> </ul>	4

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
	1 a		使用済み紙おむつの収集運搬	活動量	75.000	tkm	1t × 75km = 75tkm	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業シナリオと同一と仮定し、事業者ヒアリングから輸送距離を測定。廃棄物量1tを75km輸送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実績（事業者ヒアリングより）</li> </ul>	1
	1 b		使用済み紙おむつの収集運搬	排出係数	0.189	kgCO2e/tkm	$0.0722L/tkm \times 2.620kgCO2e/L = 0.19kgCO2e/tkm$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業シナリオと同一と仮定し、事業者ヒアリングより、トラック3t車、積載率90%を取得</li> <li>・経済産業省、国土交通省（2023）より「2-4t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費（0.0722L/tkm）と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数（2.620kgCO2e/L）を得て、これに乗じることで収集運搬の排出係数を求めた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実績（事業者ヒアリングより）</li> <li>・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27</li> </ul>	1, 2
	2 a		焼却（熱回収）	活動量	1.000	t	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物1tに対して全量を焼却</li> </ul>	-	-

基準A	2 b	焼却（熱回収）	排出係数	279.380	kgCO2e/t	1tの使用済み紙おむつ（湿重量当たり）のCO2排出量： 1.22tCO2/t×0.229 = 0.27938tCO2/t=279kgCO2/t	・紙おむつの単位焼却量当たりの排出量： 1.22tCO2/t（乾燥ベース）（p II-103） ・事業者ヒアリングより使用済み紙おむつの組成（残渣を除く重量割合）：し尿77.1%、プラスチック類(SAP含む)13.9%、パルプ類9.0% →乾燥重量の割合はし尿を除いた100%-77.1%=22.9% ・使用済み紙おむつ1tの湿重量ベースを乾燥ベースに換算した値：0.229 x 1.0t = 0.229t	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・環境省 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 HP「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」 温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver6.0)（令和7年3月）第II編 温室効果ガス排出量の算定方法 II-103	1, 15
	3 a	埋立	活動量	0.018	t	1t×(0%×77.1%+10%×13.9%+5%×9.0%)=0.0184t	・事業者ヒアリングより、使用済み紙おむつの組成（残渣を除く重量割合）：し尿77.1%、プラスチック類(SAP含む)13.9%、パルプ類9.0% ・焼却処理残渣率 廃プラスチック類10%、紙くず5% ※し尿は水分が重量割合のほとんどを占めるため、仮に残渣率は0%として計算	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・環境省「令和6年度 廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量 実態調査報告書」p30 表3-1-3 産業廃棄物の種類別の焼却処理残さ率	1, 9
	3 b	埋立	排出係数	0.000	kgCO2e/t	-	燃えがらの埋立処理に係る排出係数は0と設定	-	-
	1 a	HDPEの原料採取等	活動量	0.063	t	-	事業者ヒアリングより再生プラスチック（PE、PP、PS混合ペレット）の製造量を取得 ※事業シナリオの再生ペレットは感染性廃棄物保管用のペール缶等の原料とするため、それと同等の原料としてHDPEを設定	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1 b	HDPEの原料採取等	排出係数	1,330.000	kgCO2e/t	-	出典より、HDPEの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R 原単位の算出方法」p25	14
	2 a	クラフトパルプの原料採取等	活動量	0.087	t	-	事業者ヒアリングより、クラフトパルプの生産量を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2 b	クラフトパルプの原料採取等	排出係数	1,260.000	kgCO2e/t	-	出典より、クラフトパルプの「原料採取～輸入～石油精製～原料製造～製品製造」における排出係数を取得	環境省「3R 原単位の算出方法」p74	14
	3 a	天然ガス製造等（RDF代替）	活動量	0.005	t	0.015t×18,000MJ/t÷54,700MJ/t = 0.00500t	・事業Aで製造されるRDFの代替品を天然ガスと設定 ・出典より、RDFと輸入天然ガス(LNG)の標準発熱量（RDF：18.00MJ/kg、LNG：54.70MJ/kg）を取得 ・事業実績より基準Aで製造されるRDF（0.015t）と標準発熱量が等しい天然ガスの量を算出	・RDF燃料の製造量：事業実績（事業者ヒアリングより） ・RDF燃料及び石炭の発熱量：事業実測、資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」「固有単位表」シート	1, 13
3 b	天然ガス製造等（RDF代替）	排出係数	168.000	kgCO2e/t	-	出典より、「5産連表DB>石炭・原油・天然ガス」の排出係数を取得	環境省（2025）「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース Ver3.5」「5産連表DB」No33	16	

基準B	3 c	天然ガス製造等 (RPF代替)	活動量	0.029 t		$0.058t \times 26,880MJ/t \div 54,700MJ/t = 0.0285t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業Aで製造されるRPFの代替品を天然ガスと設定して算出</li> <li>・資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」よりRPFと輸入天然ガス(LNG)の標準発熱量 (RPF: 26.88MJ/kg、LNG: 54.70MJ/kg) を取得。</li> <li>基準Aで製造されるRPF (0.058t) と標準発熱量が等しい天然ガスの量を算出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・RPF燃料の製造量: 事業実績 (事業者ヒアリングより)</li> <li>・RPF燃料及び石炭の発熱量: 事業実績, 資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」 「固有単位表」シートAU11, FH11</li> </ul>	1, 13
	3 d	天然ガス製造等 (RPF代替)	排出係数	168.000	kgCO2e/t	-	出典より、「5産連表DB>石炭・原油・天然ガス」の排出係数を取得	環境省 (2025) 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース Ver3.5」 「5産連表DB」 No33	16
	4 a	化学肥料製造	活動量	0.002 t		$0.0045t \div 3 = 0.0015t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業Aで製造される有機肥料の代替品を化学肥料と設定して算出</li> <li>・事業シナリオの土壌改良材生産量4.5kg</li> <li>・環境省「バイオガス関連事業のLCAに関する補足ガイドライン」 (平成24年) より、肥料の効果 = 窒素肥効率とする</li> <li>・国土技術政策総合研究所の研究結果報告書より</li> <li>・p157-158 乾燥汚泥の施肥量の確認試験にて、窒素成分として3倍量を施肥した条件において、化学肥料で育てた同程度の収量結果となった。そのため、乾燥汚泥 (窒素成分量として) の肥効を3分の1と設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機肥料の製造量: 事業実績 (事業者ヒアリングより)</li> <li>・環境省 (平成24年) バイオガス関連事業のLCAに関する補足ガイドライン p9</li> <li>・国土技術政策総合研究所 脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化, 燃料化技術実証研究結果報告書 資料編 p157-158</li> </ul>	1, 17, 18
	4 b	化学肥料製造	排出係数	719.000	kgCO2e/t	-	出典より、化学肥料製造に係る排出係数 0.719tCO2e/tを取得	環境省 (2025) 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース Ver3.5」 「5産連表DB」 No104	16

(2) 資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生ベレット (PE、PP、PS混合)	0.063	t	-	事業者ヒアリングより	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	2	再生パルプ	0.087	t	-	事業者ヒアリングより	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	3	肥料	0.005	t	$0.018t \times 25\% = 4.5t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者ヒアリングより、脱水汚泥18kgを取得</li> <li>・出典より、原料処理量の約25%が肥料として生産される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実績 (事業者ヒアリングより)</li> <li>・橘 隆一ら (2008) 下水汚泥発酵肥料の製造に関するLCA, 日本LCA学会研究発表会講演要旨集, 第3回日本LCA学会研究発表会 p27</li> </ul>	1, 7

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A		該当なし						

4-1.算出結果\_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

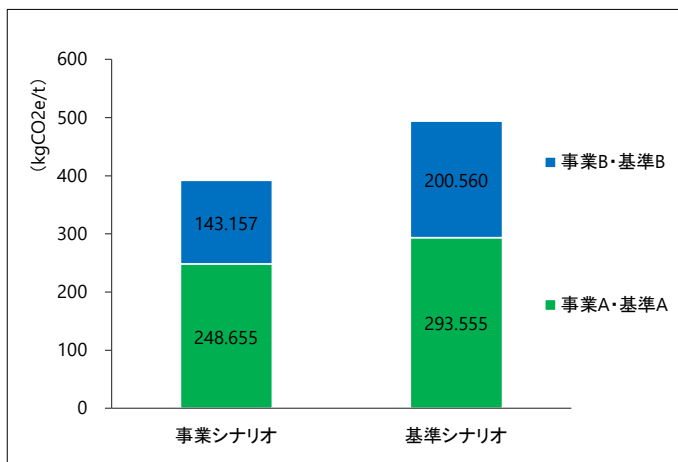
改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	248.655
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	143.157
基準A	基準シナリオの処理プロセス	293.555
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	200.560
<b>温室効果ガスの排出削減量 (基準A+基準B) - (事業A+事業B)</b>		<b>102.303</b>



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法を記載すること。

フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	使用済み紙おむつの収集運搬	75.000	tkm	b	使用済み紙おむつの収集運搬	0.189	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	14.175
	2	水溶化処理	a	水溶化処理 (CaCl <sub>2</sub> の注入)		t	b	水溶化処理 (CaCl <sub>2</sub> の注入)	744.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	
	2	水溶化処理	c	水溶化処理 (次亜塩素酸ナトリウムの注入)		t	d	水溶化処理 (次亜塩素酸ナトリウムの注入)	789.000	kgCO <sub>2</sub> e/kt	
	2	水溶化処理	e	水溶化処理 (高分子凝集剤の注入)		t	f	水溶化処理 (高分子凝集剤の注入)	2,660.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	
	2	水溶化処理	g	水溶化処理 (メタノールの注入)		t	h	水溶化処理 (メタノールの注入)	2.228	kgCO <sub>2</sub> e/t	
	2	水溶化処理	i	水溶化処理 (苛性ソーダの注入)		t	j	水溶化処理 (苛性ソーダの注入)	1,677.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	
	2	水溶化処理	k	水溶化処理 (工業用水の使用)		m <sup>3</sup>	l	水溶化処理 (工業用水の使用)	0.002	kgCO <sub>2</sub> e/m <sup>3</sup>	
	2	水溶化処理	m	水溶化処理 (電力使用)		kWh	n	水溶化処理 (電力使用)	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	
	3	輸送	a	輸送 (ブラ洗浄残渣)	0.009	tkm	b	輸送 (ブラ洗浄残渣)	0.333	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.003
	4	RDF製造	a	RDF製造	0.015	t	b	RDF製造	373.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	5.595
	5	輸送	a	輸送 (ブラ)	4.158	tkm	b	輸送 (ブラ)	0.124	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.516
6	再生ベレット製造	a	ブラ破碎・洗浄・加工	6.485	kWh	b	ブラ破碎・洗浄・加工	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	2.743	
6	再生ベレット製造	c	ブラ洗浄 (工業用水使用)		m <sup>3</sup>	d	ブラ洗浄 (工業用水使用)	0.070	kgCO <sub>2</sub> e/m <sup>3</sup>		
6	再生ベレット製造	e	ブラ異物除去		kWh	f	ブラ異物除去	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh		
6	再生ベレット製造	g	ブラベレット化		kWh	h	ブラベレット化	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh		
7	輸送	a	輸送 (廃SAP)	0.017	tkm	b	輸送 (廃SAP)	0.095	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.002	
8	RPF製造	a	RPF製造	0.058	t	b	RPF製造	109.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	6.322	
9	輸送	a	輸送 (脱水汚泥)	0.918	tkm	b	輸送 (脱水汚泥)	0.239	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.219	
10	肥料化	a	脱水汚泥の肥料化	0.018	t	b	脱水汚泥の肥料化	40.500	kgCO <sub>2</sub> e/t	0.729	
11	輸送	a	輸送 (廃水処理残渣)	1.194	tkm	b	輸送 (廃水処理残渣)	0.095	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	0.113	

12	焼却	a	焼却（廃水処理残渣）	0.025	t	b	焼却（廃水処理残渣）	534.000	kgCO2e/t	13.350
13	埋立	a	埋立	0.002	t	b	埋立	85.100	kgCO2e/t	0.170
<b>合計</b>									<b>248.655</b>	

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	収集運搬	a	発電	338.433	kWh	b	発電	0.423	kgCO2e/kWh	143.157
<b>合計</b>										<b>143.157</b>	

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	使用済み紙おむつの収集運搬	75.000	tkm	b	使用済み紙おむつの収集運搬	0.189	kgCO2e/tkm	14.175
	2	焼却	a	焼却（熱回収）	1.000	t	b	焼却（熱回収）	279.380	kgCO2e/t	279.380
	3	埋立	a	埋立	0.018	t	b	埋立	0.000	kgCO2e/t	0.000
<b>合計</b>										<b>293.555</b>	

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	採掘等	a	HDPEの原料採取等	0.063	t	b	HDPEの原料採取等	1,330.000	kgCO2e/t	83.790
	2	採掘等	a	クラフトパルプの原料採取等	0.087	t	b	クラフトパルプの原料採取等	1,260.000	kgCO2e/t	109.620
	3	採掘等	a	天然ガス製造等（RDF代替）	0.005	t	b	天然ガス製造等（RDF代替）	168.000	kgCO2e/t	0.840
	3	採掘等	c	天然ガス製造等（RPF代替）	0.029	t	d	天然ガス製造等（RPF代替）	168.000	kgCO2e/t	4.872
	4	採掘等	a	化学肥料製造	0.002	kg	b	化学肥料製造	719.000	kgCO2e/kg	1.438
<b>合計</b>										<b>200.560</b>	

4-2.算出結果\_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）

改訂番号 1

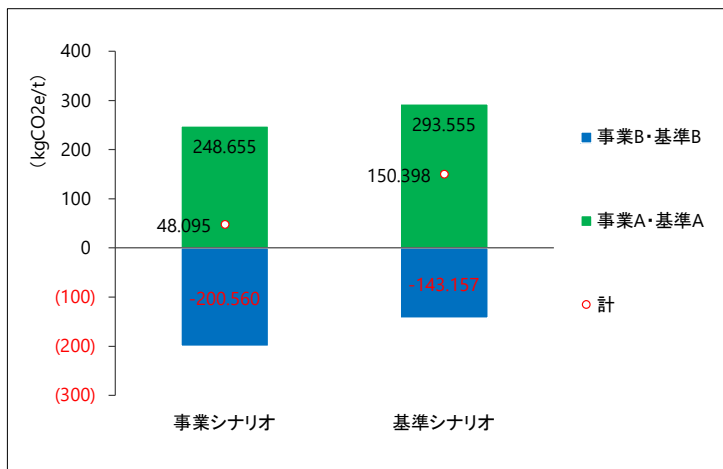
入力日 令和8年4月X日

事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

① 廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO2e/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	248.655
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-200.560
事業シナリオ		48.095
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	293.555
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量（負の排出量として計上）	-143.157
基準シナリオ		150.398
温室効果ガス排出量の削減効果 (基準A+事業B) - (事業A+基準B)		102.303



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法を記載すること。  
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

① 事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	使用済み紙おむつの収集運搬	75.000	tkm	b	使用済み紙おむつの収集運搬	0.189	kgCO2e/tkm	14.175
	2	水溶化処理	a	水溶化処理 (CaCl2の注入)		t	b	水溶化処理 (CaCl2の注入)	744.000	kgCO2e/t	
	2	水溶化処理	c	水溶化処理 (次亜塩素酸ナトリウムの注入)		t	d	水溶化処理 (次亜塩素酸ナトリウムの注入)	789.000	kgCO2e/kt	
	2	水溶化処理	e	水溶化処理 (高分子凝集剤の注入)		t	f	水溶化処理 (高分子凝集剤の注入)	2,660.000	kgCO2e/t	
	2	水溶化処理	g	水溶化処理 (メタノールの注入)		t	h	水溶化処理 (メタノールの注入)	2.228	kgCO2e/t	
	2	水溶化処理	i	水溶化処理 (苛性ソーダの注入)		t	j	水溶化処理 (苛性ソーダの注入)	1,677.000	kgCO2e/t	
	2	水溶化処理	k	水溶化処理 (工業用水の使用)		m3	l	水溶化処理 (工業用水の使用)	0.002	kgCO2e/m3	
	2	水溶化処理	m	水溶化処理 (電力使用)		kWh	n	水溶化処理 (電力使用)	0.423	kgCO2e/kWh	
	3	輸送	a	輸送 (プラ洗浄残渣)	0.009	tkm	b	輸送 (プラ洗浄残渣)	0.333	kgCO2e/tkm	0.003
	4	RDF製造	a	RDF製造	0.015	t	b	RDF製造	373.000	kgCO2e/t	5.595
5	輸送	a	輸送 (プラ)	4.158	tkm	b	輸送 (プラ)	0.124	kgCO2e/tkm	0.516	
6	再生ベレット製造	a	プラ破碎・洗浄・加工	6.485	kWh	b	プラ破碎・洗浄・加工	0.423	kgCO2e/kWh	2.743	
6	再生ベレット製造	c	プラ洗浄 (工業用水使用)		m3	d	プラ洗浄 (工業用水使用)	0.070	kgCO2e/m3		
6	再生ベレット製造	e	プラ異物除去		kWh	f	プラ異物除去	0.423	kgCO2e/kWh		
6	再生ベレット製造	g	プラベレット化		kWh	h	プラベレット化	0.423	kgCO2e/kWh		
7	輸送	a	輸送 (廃SAP)	0.017	tkm	b	輸送 (廃SAP)	0.095	kgCO2e/tkm	0.002	
8	RPF製造	a	RPF製造	0.058	t	b	RPF製造	109.000	kgCO2e/t	6.322	
9	輸送	a	輸送 (脱水汚泥)	0.918	tkm	b	輸送 (脱水汚泥)	0.239	kgCO2e/tkm	0.219	
10	肥料化	a	脱水汚泥の肥料化	0.018	t	b	脱水汚泥の肥料化	40.500	kgCO2e/t	0.729	

11	輸送	a	輸送（廃水処理残渣）	1.194	tkm	b	輸送（廃水処理残渣）	0.095	kgCO2e/tkm	0.113
12	焼却	a	焼却（廃水処理残渣）	0.025	t	b	焼却（廃水処理残渣）	534.000	kgCO2e/t	13.350
13	埋立	a	埋立	0.002	t	b	埋立	85.100	kgCO2e/t	0.170
<b>合計</b>									<b>248.655</b>	

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	採掘等	a	HDPEの原料採取等	0.063	t	b	HDPEの原料採取等	1,330.000	kgCO2e/t	83.790
	2	採掘等	a	クラフトパルプの原料採取等	0.087	t	b	クラフトパルプの原料採取等	1,260.000	kgCO2e/t	109.620
	3	採掘等	a	天然ガス製造等（RDF代替）	0.005	t	b	天然ガス製造等（RDF代替）	168.000	kgCO2e/t	0.840
	3	採掘等	c	天然ガス製造等（RPF代替）	0.029	t	d	天然ガス製造等（RPF代替）	168.000	kgCO2e/t	4.872
	4	採掘等	a	化学肥料製造	0.002	kg	b	化学肥料製造	719.000	kgCO2e/kg	1.438
<b>合計</b>									<b>200.560</b>		

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	使用済み紙おむつの収集運搬	75.000	tkm	b	使用済み紙おむつの収集運搬	0.189	kgCO2e/tkm	14.175
	2	焼却	a	焼却（熱回収）	1.000	t	b	焼却（熱回収）	279.380	kgCO2e/t	279.380
	3	埋立	a	埋立	0.018	t	b	埋立	0.000	kgCO2e/t	0.000
<b>合計</b>									<b>293.555</b>		

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	収集運搬	a	発電	338.433	kWh	b	発電	0.423	kgCO2e/kWh	143.157
<b>合計</b>									<b>143.157</b>		

## 5-1.算出結果\_資源循環の効果 (類型①)

改訂番号

1

入力日

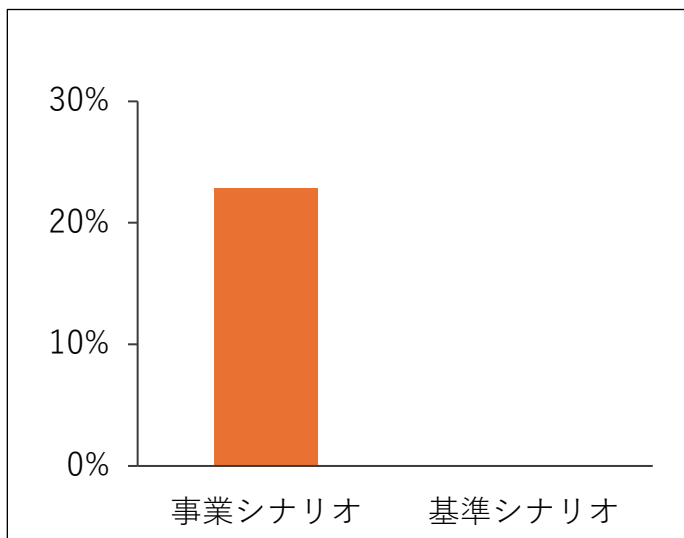
令和8年4月X日

### 事業名：使用済み紙おむつのマテリアルリサイクル(類型1)

#### (1) 資源循環の効果

##### ①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量 (t)	1.000	1.000
再生材供給量 (t)	0.228	0.000
再生材供給量/ 廃棄物の処理量 (%)	23%	0%
<b>資源循環の効果 = 事業シナリオ-基準シナリオ</b>		<b>23pt</b>



#### (2) 算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

##### ①事業シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
1	再生ペレット(PE、PP、PS混合)	0.063	t
2	再生パルプ	0.087	t
3	RDF	0.015	t
4	RPF	0.058	t
5	肥料	0.005	t
合計		0.228	t

##### ②基準シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
-	該当なし	0.000	t
合計		0.000	t